

平成 22 年度建設委員会研究テーマ
「上高地登山鉄道について」調査研究報告書

松本市議会建設委員会

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
2	検討経過・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
3	検討内容・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
4	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
5	平成22年度松本市議会建設委員会名簿・・・・・・・・	P 3

資料 1	7 月 13 日研修資料「上高地新輸送構想について」 「上高地新輸送システム提案書」・・・・・・・・	P 5～P112
------	---	----------

資料 2	先進都市視察調査報告書（群馬県みどり市 わたらせ渓谷鐵道）・・・・・・・・	P113～P119
------	--	-----------

資料 3	沢渡駐車場基本計画についての研修報告書・・・	P120～P151
------	------------------------	-----------

1 はじめに

建設委員会は調査・研究テーマの一つとして、「上高地登山鉄道について」検討しました。

これは、日本を代表する山岳景勝地である上高地では、環境に配慮したバス等の運行が進められていますが、環境に配慮した将来社会を展望した時、より一層の環境対策を講じ、その大自然を保全するとともに、平成9年12月の安房トンネル開通後、岐阜県側からの観光客の入込が急増していることへの対応、大型バスやタクシーによる上高地区域内の激しい交通渋滞の解消、また、観光客に安全で安心して上高地を楽しんでいただくことを目的に、上高地における新しい輸送システムについて調査研究したものです。

2 検討経過

平成22年6月17日	調査・研究テーマの一つに「上高地登山鉄道について」を決定
平成22年7月13日	平成17年12月より約4年間、安曇地区において研究・検討された「上高地新輸送システム」について計画を担当した日本工営㈱より説明を受ける
平成22年7月28日	研究テーマに沿い、群馬県みどり市のわたらせ渓谷鐵道を視察
平成22年8月12日	国道158号の渋滞状況や沢渡駐車場、平湯駐車場の混雑状況について、現地調査を実施
平成22年8月19日	当面する日程などを決定
平成22年11月9日	沢渡地区駐車場基本計画について安曇支所観光課長から説明を受ける
平成22年12月9日	議論は重ねたものの提言するに至らず、報告に止めることを確認

3 検討内容

(1) 「上高地新輸送システム」についての研修

旧安曇村では平成5年3月、当時の安曇村長が「上高地登山鉄道構想」を表明して以降、松本市に合併する平成17年3月までの間、上高地登山鉄道（計画）に関する様々な研究や検討に取り組みながら議論を重ねてきた経緯があります。

最近では、上高地の諸課題解決のための方策を研究し、社会に提案することを目的として、平成 17 年に「上高地新輸送システム」研究会が立ち上げられ、4 年余りの研究がなされた結果、平成 21 年には提案書として「上高地新輸送システム」が取りまとめられました。

このため当建設委員会では、テーマ提案者の意向もあり、「上高地新輸送システム」提案書をまずは取り上げ、この調査・研究から始めることといたしました。第 1 回目は、この報告書を取りまとめた日本工営株式会社本社非常勤顧問の伝田幸男氏と同都市交通システム次長の溝上伸一氏を招いて提案書の内容についての説明を受けました。

(2) わたらせ溪谷鐵道の視察調査

大都会の鉄道経営を除き、民間、自治体問わず地方における鉄道経営は軒並み厳しい実情にあります。このため群馬県みどり市のわたらせ溪谷鐵道について視察調査することとしました。この鉄道は厳しい経営状態を経験しながら、現在もなお赤字経営ではあるものの新たな道を見出しつつ経営改善に挑んでいる先進的な第三セクター方式による鉄道でありました。

(3) 国道 158 号の渋滞状況、沢渡駐車場の混雑状況の現地調査

上高地登山鉄道構想の発端となった、深刻な渋滞問題や駐車場問題などから、国道 158 号の渋滞状況や沢渡駐車場、平湯駐車場の混雑状況について、現地調査を実施いたしました。

(4) 沢渡地区駐車場基本計画について説明を受ける

現地調査の取組みに合わせ沢渡地区駐車場基本計画について、安曇支所観光課の奥原仁作課長から説明を受けました。

4 おわりに

以上の調査研究から、課題解決のための新輸送システムとして登山鉄道、LRT、BRTなどが考えられることがわかりましたが、初期費用などのコスト面の問題の検討や、地域住民の意見聴取を行なうなどの調査研究が十分行なえませんでした。このテーマ「上高地登山鉄道について」は、今後、時間をかけて各般にわたり検討する必要があることから、今回は提言を行なうまでにはいたらなかったため、これまでの調査・研究活動について報告するものです。